

実践報告

本学学生の情報リテラシー向上を目指した試み

倉上洋行、中村達也、西宗高弘、河合一武、駒林隆夫

The trial for improving “information literacy” of students in this junior college

Hiroyuki KURAKAMI, Tatsuya NAKAMURA, Takahiro NISHIMUNE,
Kazutake KAWAI, Takao KOMABAYASHI

Abstract

The environment around LAN in this junior college was drastically improved through various actions by the committee of domestic information system for a year. And so, authors want to propose policies for improving “information literacy” of students in this junior college.

The students often use browser on portable telephone. They are not able to smooth input by keyboard on PC, though they are able to operate mouse on PC. There is fear such situation causes problems when students select their course after graduation.

And so, authors developed “one stop portal system”. It is a system they are able to access requiring information in minimum clicks, for example “information which is useful for recruiting activity” and “internal reports in this junior college,” web mail which is exclusive use of the students (it is available from extramural), and so on, and in addition, “retrieval site”available from identical page.

And, authors have developed “contents available from portable telephone”and”broadcasting VOD (video on demand) system” available from ubiquitous places for 24 hours as a strategy for rising motivation of learning. Authors expect that their self-direction is demonstrated strongly by these policies.

Key words: information literacy, PC, motivation for learning, ubiquitous

キーワード：情報リテラシー、パソコン、学習の動機付け、ユビキタス

はじめに

近年のIT（情報技術）化により、多様な産業において、省力化が実現し、生産性が著しく向上した例は枚挙に暇がない。こういった動向は、学生の進路を考える上での重要テーマであ

り、情報リテラシー（情報の読み書き能力）に関する早期教育の重要性は高まる一方である。

本学におけるIT化の現状

こういった社会情勢の変化に機敏に対応した動向が本学でも垣間見られる。例えば、情報シ

システム委員会主導で進められてきた学内 LAN 環境の改善が挙げられる。すなわち、著者らの測定環境 (Windows XP、Pentium (R) 4 CPU 1.40 GHz) では、通信速度の大幅な向上、つまり、改善の前後で、アップロード速度が約110 kbps から約700 kbps へ、ダウンロード速度が約110 kbps から約1.1 M~1.3 M bps へと向上している。特に、ダウンロード速度が約10倍以上も改善したことは注目に値することであり、大容量の学術データのやり取りに資するものと考えられる。

一方で、本学学生の「情報リテラシー」に目を向けると、インターネットだけでなく、PC (パソコン) も扱えない学生が少なくないように思われる。つまり、携帯電話のブラウザ利用が盛んな本学学生は、PC のマウス操作はできるが、キーボード入力がスムーズにできない学生が9割以上を占めている。このような状況では、学生が就職活動時に「PCによるインターネット接続」を活用できない懸念がある。

『情報リテラシー』獲得のための動機付け

上記問題の解決策として、著者らは、学生が『情報リテラシー』を獲得する際に学問としての立場にこだわらない戦略が有効と考える。つまり、『情報リテラシー』の学習時に、娯楽的要素を取り入れ、探究心を刺激することが効果的と考える。そこで、著者らは、本学学生の「情報リテラシー」学習に対するモチベーション向上策として、いくつかの施策に着手した。このうち試験運用により利用者から高い評価を得られたものについて以下に示す。

Yahoo!や Google よりも使いやすいポータルサイトの開発

私たちが、インターネットを活用した情報収集を行うとき、PC 起動後に、ブラウザ (インターネット・イクスプローラーなどの閲覧ソフト) を起動することが一般的である。このとき、ブラウザ起動と同時に、Yahoo!や Google などのポータルサイトに自動接続している場合

が多く見られる。これらの著名なポータルサイトは、不特定多数の利用者を対象にしている。よって、『Yahoo!』や『Google』が提供するサービスのうち、学生が頻繁に利用するサービスは、極めて一部に限定されている。このため、自分がしばしば必要とする情報が、膨大な選択項目に埋もれている場合が多い。

そこで、著者らは、最少のクリック数で目的とする情報、例えば、「就職活動に役立つ情報」や「学内情報」、「在学生専用 Web メール (学外からも利用可能)」などにアクセスでき、さらに、同一ページから『Yahoo!』検索、および、『Google』検索も行えるというポータルサイトを開発した。

学習動機付けのための戦略

さらに、著者らは、学習動機付けのための戦略として、24時間視聴可能な VOD (Video On Demand) 方式による「インターネット版テレビ放送」システム、および、携帯電話から利用可能なシステムを開発した。

まず、VOD に関しては、現在 1 Mbps に対応した高画質、かつ高音質のコンテンツを開発し、試験放送を行っている。今後は、学園の様子を紹介するための広報ツールとして、また、ある種の試験対策講座を遠隔地の卒業生に対して行うなどの通信教育としても援用可能である。

また、携帯電話向けシステムは、PC 操作が苦手な学生に対して、PC 操作への導入という位置づけで開発を行ってきた。同コンテンツの利用によって、インターネットの楽しさを体感してもらうのが狙いである。実際に、PC 操作が苦手であった学生が同コンテンツを視聴後、さらに詳しいコンテンツを PC で視聴するために、PC 操作がスムーズにできるようになるという事例が数例あった。

おわりに

著者らは、上記プロジェクトを通して、学生

の主体性発揮の場を提供したいと考えている。学生本人が関心を持っていることが動機となって始まった学習過程というものは、強制されて行う学習よりもはるかに快適で満足感が得られるからである。また、学生が「情報の収集」→「情報の加工」→「情報の発信」という『情報リテラシー』の根幹を深く理解することは、彼らの進路選択にとって大変有意義な経験になるからである。

さらに、著者らは、学園紹介や地域密着コンテンツの配信を重視するとともに、地場産業を飛躍させる施策も検討している。このような趣旨のコンテンツは、既に数本完成し、試験放送を行っている。今後は、利用者(学生、および、教職員、地域住民)がコンテンツ開発に参加することで、双方向性のコンテンツを開発することが課題である。

要約

本学の情報システム委員会の諸施策により、学内 LAN 環境は、この1年で大幅に改善した。この好機を捉えて、著者らは、本学学生の「情報リテラシー」向上策を提案する。

本学学生は、携帯電話のブラウザ利用が盛んである。しかし、PCに関しては、マウス操作はできるが、キーボード入力がスムーズにできない学生が多い。このような状況は、学生の進路選択に支障をきたす懸念がある。

そこで、著者らは、最少のクリック数で目的とする情報、例えば、「就職活動に役立つ情報」や「学内情報」、「在学生専用 Web メール (学外からも利用可能)」などにアクセスでき、さらに、同一ページからネット検索も行える仕組みを開発した。

また、著者らは、学習動機付けのための戦略として、どこからでも、24時間視聴可能な VOD (Video On Demand) 方式による「インターネット版テレビ放送システム」、および、携帯電話から利用可能なシステムの開発を進めてきた。

著者らは、これらの施策によって、学生の主体性がより一層発揮されるものと期待してい

る。

参考資料

図1の①は、著者らが開発し試験運用中のサイト。大手ポータルサイト(②③④)と比較すると、学内や地域密着の情報を充実させ、利用頻度の低い機能は排除した。しかし、同一のページから『Yahoo!』検索、および、『Google』検索を可能にしている。

②の『Google』は、シンプルなデザインの典型である。③は大手ポータルサイトの草分け的存在である『Yahoo!』。④の『livedoor』は新興の大手ポータルサイトだが『Yahoo!』にデザインが類似している。

図2に、著者らが開発したサイトの概略を示す。



図1. 大手ポータルサイトとのデザイン比較

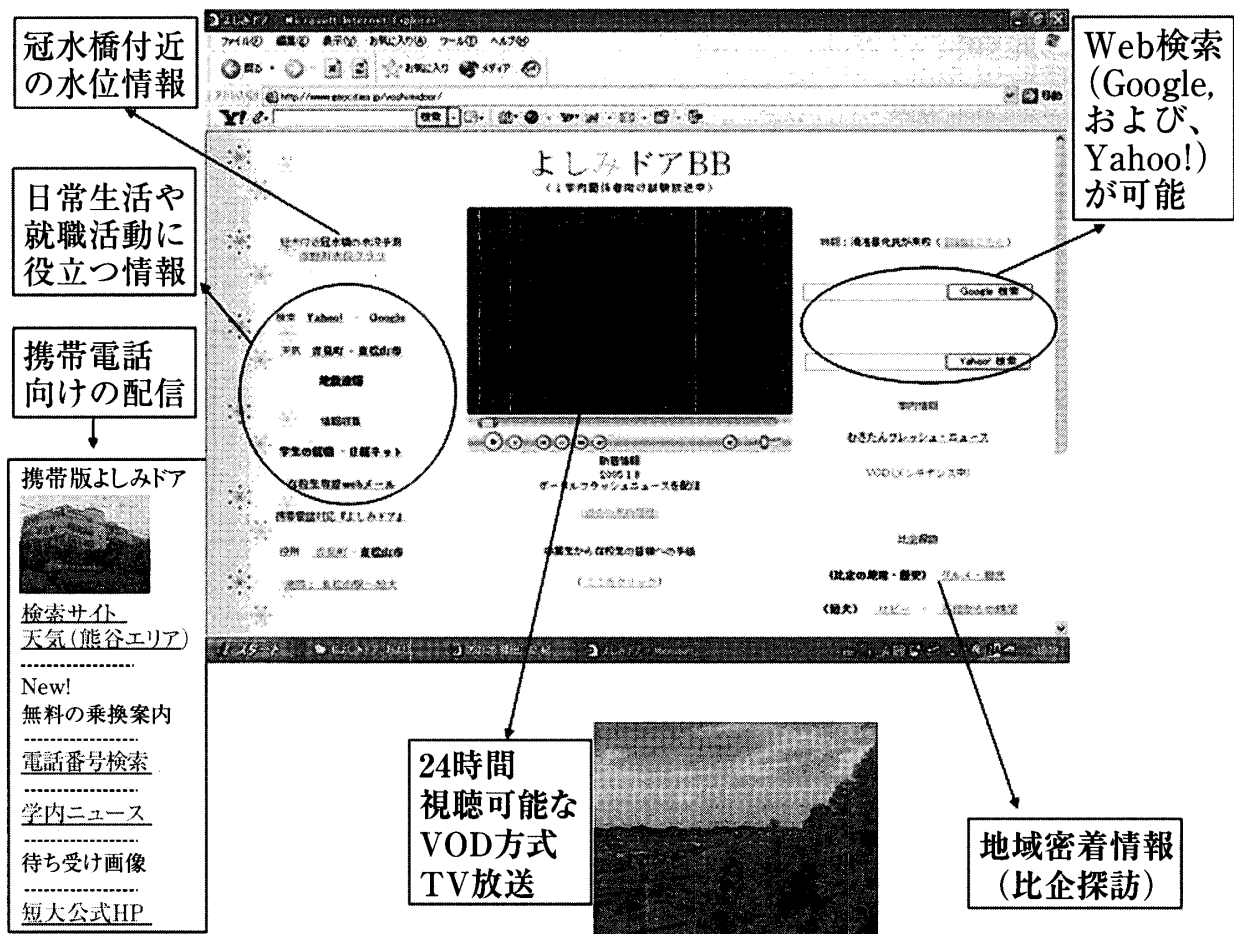


図2. 開発したポータルサイトの概略